

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホームうららびより金山(櫻館)		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1		
自己評価作成日	平成29年1月19日	評価結果市町村受理日	平成29年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2172800548-004&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成29年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

うらら金山は、名称を改めうららびより金山として生まれ変わりました。うららびより金山は、自然環境豊かな飛騨金山ぬくもりの里の一角にあります。また、地域福祉機能(病院・老人福祉施設等)や交流連携機能も道の駅に集約されつつあります。子供から高齢者まで幅広い方々が集まる地域コミュニティ拠点である。災害時の避難場所として、リバーサイドスポーツセンターがあり、今後太陽光発電、防災倉庫、防災トイレ等整備されていく方向。また、昨年より医師かい主催の金山地域連携会議が発足されました。医師会、消防署、福祉、薬剤師等がつどい、金山地域の連携をはかり、より良い環境づくりをめざしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所名の「うららびより」とは、「春のような、明るく暖かい日常を、のんびり楽しく暮らせるよう」そんな思いを込めて名付けられている。事業所は、自然環境豊かな地にあり、道の駅、温泉、病院、スポーツ施設、社会福祉施設等、地域コミュニティの拠点の中にあり、一歩、外に出れば、馴染みの人との出会いがある。管理者と職員は、利用者個々の思いや要望に応じながら、外出の機会を多く持つことで、今年度、一番の目標としてきた「地域との交流」を深めることに繋げている。また、小・中学生や近隣の人が、気軽に訪れることができる、地域に開かれた事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(櫻館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の定例会議には理念を唱和し、職員個々に心に刻み、温かいうららびより金山職員であることを誇りに持ち実践に繋げている。	「ぬくもりの金山の地で、うららかに明るく笑い楽しく語らん」を理念とし、職員は意義を理解し、日々のケアに活かしている。家族や地域の人が気軽に立ち寄れる環境をつくり、明るい暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流を大切に月1回の外食及び、祭礼、地域のイベント、防災訓練へ参加して交流を深めている。	自治会に加入しており、近くの病院の樹木の枝切り作業や、ゴミ拾いなどの活動に参加している。祭礼やぬくもりの里プロジェクト会議にも参加している。事業所のイベントには、地域住民を招いて交流したり、近隣から野菜の差し入れがある等、日常的な付き合いがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現場での経験を生かし、地域へのご理解、ご協力を仰ぎ、協力関係に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族をはじめ、市役所関係者、地区自治会役員、民生児童委員への方の参加を依頼し、意見交換を行い貴重な意見を頂いている。日曜日の開催も試み、参加人数は少しずつ増えてきた。	運営推進会議は、会議への出席率を上げ、有意義なものとするために、平日と日曜日開催を交互に行なっている。避難訓練と併せて行ったり、活発な意見交換ができるよう、「がやがや会」のコーナーを設ける等、工夫をしている。事業所の身体拘束防止への取り組み、防災等について話し合い、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	金山地域連携会議が2ヶ月に一回開催され、地域包括支援センターや各事業所、薬剤師、医療関係者と協議して、協力関係を築いている。	行政は、日曜日に行う運営推進会議にも参加し、ハザードマップにおける事業所の状況や、注意事項等、わかりやすい説明がある。職員は、行政が主催する各種の会議に積極的に参加している。また、行政窓口に向いて、事故事例を報告し、指導や助言を得ながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議には研修で議題にあげ、身体拘束防止に努めている。また、運営推進会議においてはご家族様には当施設の身体拘束防止への理解を頂いている。	事業所は、身体拘束をしない笑顔のある暮らしを目指している。家族から、夜間の転倒防止のために拘束を申し出る場合でも、弊害を説明し、人感センサー、鈴等で工夫をしたり、職員の提案から、転倒防止スローガンを掲げ、一丸となって拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	文章は回覧して読後は署名及び捺印して周知徹底を図っている。また、職員会等で意見交換を行い、防止に努めている。不適切なケアについて、言葉遣いなど気になれば職員間で注意あっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方の入居があり、職員は把握している。勉強会を行い、全職員が周知し、活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書の読み合わせを行い、ご家族の生活ごとでの不安、問題点をお聞きできるように十分に時間を掛けている。また、認知症や疾患の進行によって必要になってきた物品の購入などについても十分に説明を行い、同意を得てから購入するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ではご家族様からの貴重な意見や要望をお聞きし、運営に反映させている。	面会時や、運営推進会議後に行う「がやがや会」で、意見や要望を聴いている。遠方の家族へは、電話や手紙の中で、連絡を取り合ったり、意見や希望を聴いている。隔月発行の「うららびより」は、たくさんの写真が掲載され、行事や利用者の様子が分かり、家族から喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しての問題点は職員会で意見を頂いている。またその問題点について職員と共に解決策を見出し、反映させている。	毎月の職員会議には、非番の人も仕事として出席し、理念の振り返りと確認を行なっている。利用者に対する言葉遣いについても話し合い、改善と共有化を図っている。転倒防止対策については、職員からの提案を取り入れ、利用者の安全を守れるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員は2回／年に評価を行い、実績の把握に努めている。非常勤では勤続年数に合わせて、勤続賞がある。保養所利用の福利厚生があり、職員に周知している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量を把握にて現場における対応を観察すると共に、指摘事項については面談を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	キャリアパス支援事業や本部での会議を通じて、同業者同士の交流する機会を設けている。今年度からうららグループでのケアマネ会議も開催し勉強会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談で本人様とお会いし、要望をうかがっている。本人が安心できるような居宅のケアマネジャーや民生員の方の同席をお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みに見えた段階で、家族の困っている事、施設に期待することをお聞きしている。サービスを導入する段階では再確認させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談の時にアセスメントシートを用いて入居前に全職員が情報を把握するよう努め、必要とする支援について話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、本人の意思を尊重し、家庭的な雰囲気の中で共に信頼作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や、面会時に本人様の状態をお伝えしながら、ご家族のご要望をお聞きしている。夏祭りやがやがや会議を開催にて一緒に過ごして頂く機会を作っている。本人様の外泊やご自宅の地域の祭りへの参加などはご家族に協力をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援等でお食事会、イベントへ参加することで知人の方からお声を掛けて頂いたり、面会においても近隣の方々が来て下さることが多くなってきている。	親戚や近隣者の面会が多く、職員は笑顔で接待し、和やかな雰囲気作りに心がけ、再訪に繋げている。利用者は、家族の協力で地元の祭りに出かけたり、美容院やスーパー等で、知人に出会っている。定期的に訪問するボランティアや音楽療法士等とも馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関わりを大切にレクリエーション・散歩・行事への参加、外出、外食と声を掛け合い、参加して頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られる際には、面談時に立会い、情報提供書をお渡ししている。退所後は面会に行き様子を伺っている。手紙のやり取りを続けている方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で発した言葉や表情、行動から思いをくみ取るよう努め、入浴後や就寝前は一対一でゆったりと語るように努めている。利用者様やご家族の希望は気付きノートに記載して職員全体が把握するように努めている。	職員間で、利用者一人ひとりの性格や生活歴、生活習慣等の情報を共有している。日々の会話から、利用者の思いを汲み取り、実家周辺をドライブをすることもある。不穏な人には、時間をかけて優しく寄り添い、安心感に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時や入居後もご家族や関係者から情報を収集している。また、普段の本人様の会話からもこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前に比べ認知症の進行が進み、大きく変化しているのが現状である。個々の心身状態の把握に努め、安定した生活に心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにカンファレンスで話し合い、介護計画の評価をおこなっている。ご家族には面会時や電話でケアについての要望を伺い、介護計画に反映させている。3ヶ月以内でも必要に応じてカンファレンスを行っている。	家族の意見や要望は、面会時や「がやがや会」で聴いており、職員間で共有している。定期的に行うカンファレンスでは、担当職員が中心となり、全職員の意見を取りまとめ、計画作成担当者がそれらを反映して、利用者の笑顔のある暮らしに繋がるよう、介護計画を作成している。	介護計画作成は、利用者、家族、計画作成担当者、担当職員、その他関係者等が参加して、サービス担当者会議を行うことが望ましい。それぞれの意見を聞き、調整できる機会と捉え、介護計画に活かされることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアについては申し送り事項の徹底を図り、申し送りノート、気付きノートに記入している。職員間で情報共有を行い、ケアや介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご希望に応じて、買い物、散歩、歩行運動、預金の引き出しの立会いの支援を行っている。病院受診は基本的には家族受診をお願いしているが、家族の状況に応じて職員が対応している。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店へ買い物及安全にいけるように支援。小学校の福祉学習、中学校の職場体験、地域のボランティア訪問と交流を楽しんで頂けるように支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様が馴染みの医師による継続的な医療を受けられるよう、支援できている。認知症の進行度合いに合わせて専門医との連携を行い、必要な診療科目(特に歯科)受診できるように支援している。	かかりつけ医は、利用者や家族の希望に応じ、家族による受診同行を基本としている。協力医への受診は、管理者または、職員が同行している。申し出があれば、かかりつけ医や専門医への受診同行支援体制があり、互いに連携しあつて、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の、申し送りには看護師も参加し、気付きノートや申し送りノートを活用して情報の共有を行っている。また、24時間連絡が取れる体制で適宜、相談できる安心感がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護情報提供書を提出し、退院時には地域連携室の相談員さんを通して医療関係者から情報提供として話し合いの場を設けていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての勉強会を実施。終末期にはご家族とご希望を確認して必要時提携医の往診に切り替えて、ご家族と、医師が話し合えるよう、連絡調整をしている。ホームで出来ること、出来ないことを話し合い、支援の方針を家族や職員で共有している。	重度化や終末期の指針があり、状態の変化に応じ、本人・家族に説明している。終末期には、協力医、看護師、家族等、関係者が話し合い、連携しながら事業所で出来る範囲内の支援を行なっている。職員は看取りについて学習を重ね、受け入れ態勢を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時及び事故に備え、先般開催しました運営推進会議にAED及び人工呼吸講習会を行い、職員に徹底をはかる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市や地域の防災訓練へ参加。今年は初めて土砂災害への訓練へ参加し、地区の方の協力が得られる事を確認できた。防災無線でのシェイクアウト訓練も実施している。	災害訓練は、消防署立ち合いで年2回、運営推進会議と併せて行っている。さらに毎月自主訓練を行い、防災頭巾を備え、事業所内に、水や食料品等の備蓄を確保している。地域住民と共に、AEDの使い方の指導を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会での学習会や、カンファレンスで話し合いをして対応している。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、思いやりのある心で接しながら、その人のこだわりや暮らし方を大切にしている。また、言葉遣いの学習を重ね、日々のケアに活かしている。就寝前には、利用者の希望により、プライバシー確保のために自身で居室のカギをかける人もあり、思いを尊重しながら対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事については、要望や好みを表現されるが、日常生活については、希望や自己決定出来る方は、少なく、さらなる努力が必要である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められたことを、その時間内にやって頂こうと、同じ様な行動をとってもらう様、お願いすることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には、この服でいいですか？ズボンは、どれにしますか？等、声を掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1、2名の利用者様には、時々料理のしたごしらえを、手伝って頂いている。	食事は、三食手作りで提供している。利用者も、食材の買い出しや下ごしらえ、食器拭き等を手伝っている。職員は、利用者と一緒に、同じものを食べながら、個々のペースに合わせて食事介助をし、利用者の笑いを誘う会話で場を盛り上げている。楽しい雰囲気の中、全員が完食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には、献立表により調理するが、必要に応じ、アレンジし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、実施している。また、義歯は夕食後お預かりして洗浄剤を使用し、清潔保持につとめている。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況表を活用し、排泄パターンを把握するとともに声掛けを行っている。	職員は、利用者個々の排泄リズムや、習慣を把握し、適切な言葉かけと誘導により、全員がトイレでの排泄ができています。夜間、不穏な人には、頻回にトイレに付き添い、排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況表を活用し便秘の状況を把握している。必要に応じ医師に相談し、薬の使用を検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴して頂いている。もう少し遅い時間に入浴して頂きたいと思うが、現状では難しい状況である。	風呂は毎日準備し、拒む人は日を変えたり、誘い方を工夫している。入浴の順番や湯の温度は、利用者の好みに合わせて、柔軟に支援している。介助の職員と昔話をしながら、ゆったりと入浴を楽しんでしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間十分な睡眠が出来なかった場合は、必要に応じ日中休んで頂く事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が薬の情報に目を通し、症状の変化等があれば、申し送り時や、カンファレンス等に報告話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年々認知症の進行により、一人一人の力に応じた活動が困難になってきているのが現状である。さらなる工夫が必要となる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間の行事計画を立て、担当者が中心となり実施している。	観音様や道の駅、児童館や保育園等、事業所周辺にはいくつかの散歩コースがあり、それぞれの希望や体力に合わせてコースを選択し、個別、または複数で散歩に出かけている。年間行事の花見や紅葉狩りは家族に呼びかけ、協力を得ている。	

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様におかれましては、預金の引き出しも、ご自身でやって頂き管理されている。家族様も希望されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される利用者様には、電話をして頂いている。また、家族様からの電話には、ご本人に出ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節に応じた飾りをしたり、写真や利用者様の作品を掲示している。	一定の温・湿度を保てるよう設計がされており、24時間換気システムの導入により、快適な環境となっている。季節を感じる共同作品や雛飾り、職員が持ち寄った花々が飾られている。ゆったりとしたソファや、畳の間の掘りごたつで、居心地よく過ごせる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設の一日のスケジュールに無理に参加して頂かない様に工夫し、一人で居室で過ごされる時間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや小物入れなど、ご自分で使用された物を、居室に置いて頂いている。	居室には、使い慣れたベッドや整理筆筒、椅子等を持ち込み、利用者の好みや安全に配慮して、暮らしやすく配置している。家族の写真や孫の作品を飾り、自宅に居るような居心地の良い部屋作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特に、夜間の転倒予防に供え、人感チャイムを設置し安全にトイレに誘導できる様、工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホームうららびより金山(向日葵館)		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1		
自己評価作成日	平成29年1月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成29年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	適いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(向日葵館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の定例会議には理念を唱和し、職員個々に心に刻み、温かいうららびより金山職員であることを誇りに持ち実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流を大切に月1回の外食及び、祭礼、地域のイベント、防災訓練へ参加して交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現場での経験を生かし、地域へのご理解、ご協力を仰ぎ、協力関係に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族をはじめ、市役所関係者、地区自治会役員、民生児童委員への方の参加を依頼し、意見交換を行い貴重な意見を頂いている。日曜日の開催も試み、参加人数は少しずつ増えてきた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	金山地域連携会議が2ヶ月に一回開催され、地域包括支援センターや各事業所、薬剤師、医療関係者と協議して、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議には研修で議題にあげ、身体拘束防止に努めている。また、運営推進会議においてはご家族様には当施設の身体拘束防止への理解を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	文章は回覧して読後は署名及び捺印して周知徹底を図っている。また、職員会等で意見交換を行い、防止に努めている。不適切なケアについて、言葉遣いなど気になれば職員間で注意あっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方の入居があり、職員は把握している。勉強会を行い、全職員が周知し、活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書の読み合わせを行い、ご家族の生活ごとでの不安、問題点をお聞きできるように十分に時間を掛けている。また、認知症や疾患の進行によって必要になってきた物品の購入などについても十分に説明を行い、同意を得てから購入するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ではご家族様からの貴重な意見や要望をお聞きし、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しての問題点は職員会で意見を頂いている。またその問題点について職員と共に解決策を見出し、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員は2回／年に評価を行い、実績の把握に努めている。非常勤では勤続年数に合わせて、勤続賞がある。保養所利用の福利厚生があり、職員に周知している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量を把握にて現場における対応を観察すると共に、指摘事項については面談を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	うららびより全事業所の代表者及び管理者が集い、中堅者研修が開催され、サービス向上、職員教育について学び、実践に繋げている。今年度からケアマネ会議も開催し勉強会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談で本人様とお会いし、要望をうかがっている。本人が安心できるような居宅のケアマネジャーや民生員の方の同席をお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みに見えた段階で、家族の困っている事、施設に期待することをお聞きしている。サービスを導入する段階では再確認させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談の時にアセスメントシートを用いて入居前に全職員が情報を把握するよう努め、必要とする支援について話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、本人の意思を尊重し、家庭的な雰囲気の中で共に信頼作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や、面会時に本人様の状態をお伝えしながら、ご家族のご要望をお聞きしている。夏祭りやがやがや会議を開催にて一緒に過ごして頂く機会を作っている。本人様の外泊やご自宅の地域の祭りへの参加などはご家族に協力をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援等でお食事会、イベントへ参加することで知人の方からお声を掛けて頂いたり、面会においても近隣の方々が来て下さることが多くなってきている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関わりを大切にレクリエーション・散歩・行事への参加、外出、外食と声を掛け合い、参加して頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られる際には、面談時に立会い、情報提供書をお渡ししている。退所後は面会に行き様子を伺っている。手紙のやり取りを続けている方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で発した言葉や表情、行動から思いをくみ取るよう努め、入浴後や就寝前は一對一でゆったりと語るように努めている。利用者様やご家族の希望は気付きノートへ記載して職員全体が把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時や入居後もご家族や関係者から情報を収集している。また、普段の本人様の会話からもこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前に比べ認知症の進行が進み、大きく変化しているのが現状である。個々の心身状態の把握に努め、安定した生活に心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにカンファレンスで話し合い、介護計画の評価をおこなっている。ご家族には面会時や電話でケアについての要望を伺い、介護計画に反映させている。3ヶ月以内でも必要に応じてカンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子とケアについては申し送り事項の徹底を図り、申し送りノート、気付きノートに記入している。職員間で情報共有を行い、ケアや介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご希望に応じて、買い物、散歩、歩行運動の支援を行っている。病院受診は基本的には家族受診をお願いしているが、家族の状況に応じて職員が対応している。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店へ買い物に安全にいけるように支援。小学校の福祉学習、中学校の職場体験、地域のボランティア訪問と交流を楽しんで頂けるように支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様が馴染みの医師による継続的な医療を受けられるよう、支援できている。認知症の進行度合いに合わせて専門医との連携を行い、必要な診療科目（特に歯科）受診できるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の、申し送りには看護師も参加し、気付きノートや申し送りノートを活用して情報の共有を行っている。また、24時間連絡が取れる体制で適宜、相談できる安心感がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護情報提供書を提出し、退院時には地域連携室の相談員さんを通して医療関係者から情報提供として話し合いの場を設けていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての勉強会を実施。終末期にはご家族とご希望を確認して必要時提携医の往診に切り替えて、ご家族と、医師が話し合えるよう、連絡調整をしている。ホームで出来ること、出来ないことを話し合い、支援の方針を家族や職員で共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時及び事故に備え、先般開催しました運営推進会議にAED及び人工呼吸講習会を行い。職員に徹底をはかる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市や地域の防災訓練へ参加。今年は初めて土砂災害への訓練へ参加し、地区の方の協力が得られる事を確認できた。防災無線でのシェイクアウト訓練も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会での学習会や、カンファレンスで話し合いをして対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事については、要望や好みを表現されるが、日常生活については、希望や自己決定出来る方は、少なく、さらなる努力が必要である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められたことを、その時間内にやって頂く、同じ様な行動をとってもらう様、お願いすることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には、この服でいいですか？ズボン、どれにしますか？等、声を掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1、2名の利用者様には、時々料理のしたごしらえを、手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には、献立表により調理するが、必要に応じ、アレンジし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、実施している。また、義歯は夕食後お預かりして洗浄剤を使用し、清潔保持につとめている。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況表を活用し、排泄パターンを把握するとともに声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況表を活用し便秘の状況を把握している。必要に応じ医師に相談し、薬の使用を検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴して頂いている。もう少し遅い時間に入浴して頂きたいと思うが、現状では難しい状況である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間十分な睡眠が出来なかった場合は、必要に応じ日中休んで頂く事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が薬の情報に目を通し、症状の変化等があれば、申し送り時や、カンファレンス等に報告し話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年々認知症の進行により、一人一人の力に応じた活動が困難になってきているのが現状である。さらなる工夫が必要となる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間の行事計画を立て、担当者が中心となり実施している。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様におかれましては、預金の引き出しも、ご自身でやって頂き管理されている。家族様も希望されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される利用者様には、電話をして頂いている。また、家族様からの電話には、ご本人に出て頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節に応じた飾りをしたり、写真や利用者様の作品を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設の一日のスケジュールに無理に参加して頂かない様に工夫し、一人で居室で過ごされる時間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや小物入れなど、ご自分で使用された物を、居室に置いて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特に、夜間の転倒予防に供え、人感チャイムを設置し安全にトイレに誘導できる様、工夫している。		